

家畜の健康増進と冬季の牛乳生産向上に

飼料用カブ優良品種

ビタミン類 ミネラルを含み、消化率の良い飼料用根菜は、1980年代の酪農畜産の指向として

- ① 家畜の健康を良くし、長命で連産性を高める（家畜償却費の低減）。
- ② 乳牛個体能力を向上し、少数精鋭主義に徹する（飼料用根菜は泌乳量を向上）。
- ③ 牛乳の成分改善に努める（飼料用根菜は乾物摂取量を多くし、無脂固形分を高める）。

上記各項目を飼料用カブの給与によって効果をあげることができましょう。とかく飼料用カブは間引きと収穫に手間がかかり、しかも乾物、TDN収量は低いといわれますが、他の作物が生育できない冬季間に肥大し給与されるメリットを注目すべきです。

雪印種苗では毎年研究農場において、優良母根（厚肉で深みのある肥大根）を個体選抜し、隔離条件下で原種生産を行ない、30年間以上にわたって選抜淘汰を継続しており、自信をもってお奨めできる優良品種です。



下総カブ

雪印改良 ^{シモフサ} 下総カブ

生育日数110～130日の晩生種。特に関東以西では葉部、根部ともに飼料用カブ中最高の収量。（永年にわたり母根選抜を続けている優良品種）

雪印改良 ^{ムラサキマル} 紫丸カブ

生育日数約90日の極早生種。貯蔵性高く、厚肉で多収。短期の収穫に適する。（永年にわたり母根選抜を続けている優良品種）

小岩井カブ

生育日数100～110日の中生種。根部の収量多く比較的寒い地方に適する。

ケンシンカブ

農林省北陸農業試験場育成。生育日数100～110日の中生種。根部の抽出部は緑色。葉部、根部とも収量は多い。病害にも強く、各地に適する。

飼料用カブ栽培のポイント

- 播種期：寒地 7月中旬～8月中旬
暖地 8月中旬～9月上旬
- 播種方法：畦幅50～60cmの条播（本葉3～4枚頃に株間20～25cmの1本立）、または散播。10a当たり、0.2～0.4k、散播の場合は70～80g。
- 収穫期：寒地では降霜前に収穫し、茎葉は切り取り与え、根部は貯蔵。暖地では適宜収穫して与える。10a当たり、6,000～8,000kgの収量。